

第 22 回 PCV 漏えい試験検討会 議事録

1. 開催日時: 平成 27 年 2 月 13 日(金)13:30~15:10

2. 開催場所: 日本電気クラブ 10 階 A 会議室

3. 参加者 : (順不同, 敬称略)

□出席者:

大本主査(関西電力), 山崎(東京電力), 今井(三菱重工業),
梅岡(電源開発), 大坂(日立 GE ニュークリア・エンジン), 楠本(九州電力),
小林(日本原子力研究開発機構), 斉藤(中部電力), 座主(北陸電力),
首藤(日本原子力発電), 堀水(原子力安全推進協会), 味森(東芝),
青柳(北海道電力), (計 13 名)

□代理出席者: 松浦(発電設備技術検査協会工藤代理), 川越(東北電力清水代理),
宍道(中国電力中川代理), 堀家(四国電力濱口代理), (計 4 名)

□欠席者: 上田(関西電力), (計 1 名)

□事務局: 沖, 飯田(日本電気協会) (計 2 名)

4. 配付資料

配布資料

資料 22-1 第 20 回 PCV 漏えい試験検討会議事録(案)

資料 22-2 第 21 回 PCV 漏えい試験検討会議事録(案)

資料 22-3 「原子炉格納容器の漏えい率試験規程(JEAC4203)」新旧比較表

資料 22-4 【新旧比較】(解説編)原子炉格納容器の漏えい率試験規程

資料 22-5 原子炉格納容器の漏えい率試験規程(JEAC4203-201X)
改訂内容について

資料 22-6 LRT 規程 2008 年版技術評価書における JNES 要望事項

資料 22-7 解説 2-12 改訂案補足

資料 22-8 3.原子炉格納容器全体漏えい率試験(A 種試験)標準方案

資料 22-9 正誤表

5. 議事

(1)定足数等の確認

事務局から、本日の出席者数は、委員 18 名中、17 名出席、1 名欠席で定足数「委員総数の 3 分の 2 以上の出席(12 名以上出席)」を報告し、本日の検討会が定足数を満たしていることを確認した。

(2)前回議事録の確認

資料 22-1 及び 22-2 に基づき、前回議事録(案)を主査より紹介した。

(3) 議事

資料 22-3～9 に基づき説明を実施した。

以下のコメントが委員よりあった。

○資料 22-9

・備考の記載が誤記修正で良いのか？

→検討する。

・対応の記載で「算出する漏えい率に影響はない」とあるがこのような記載は
検査成績書を確認する言葉と捉えられるのではないか？

→当該記載を見直す。特に解説での記載は解説の記載の旨のみ記載し

上記のような記載は削除する。

・「本文及び解説正誤表」と「誤記の正誤表」では統一がとれない。詳細な記載が
「誤記の正誤表」でないのは何故か？

→もともとこの2つの資料は目的が違う、一方は来年度改定版の記載内容であり
もう一方は 2008 年版の誤記の纏めである。後者については基本的に変更
理由②を中心に記載しており、③の範疇は記載していない。これは前者
について③の理由が記載されておりかつ③は次回改定で反映すれば良い
ものであるため。

・であればその旨を記載すべきでないか、また、正誤表だけで纏めるのではなく
簡易でも報告書の形態とすべきでないのか？そこにサマリの内容を記載して
例えば「解説部分はあくまで誤植の範疇、本文に関わる部分は～～で問題
ない」というような記載事項を示せば良いのでないか？

→反映する。

6. 今後のスケジュール(予定)

上記のコメントを反映し、再度資料を改訂する。

スケジュールとして以下を想定する。

・2月18日 吉村先生ご説明

・2月20日

～3月3日 メール審議開始-終了

・3月4日

～3月6日 コメント反映

・3月6日

～3月13日 メール審議2回目

・3月18日 分科会委員 周知

・3月18日 規格委員会委員長 ご説明

・3月27日 規格委員会 お諮り

検討会開催については別途連絡する。

以 上